

みんなのほくぶつかん みんなぱく

MINPAKU

「生きものさがし」にお越しく下さい。

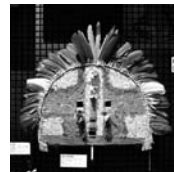
国立民族学博物館とニフレル（株式会社海遊館）、
連携協力協定を締結

昨年11月、万博記念公園駅前の大型複合施設エキスポシティに、生きているミュージアム「ニフレル」がオープンしました。「感性にふれる」をコンセプトとするミュージアムです。色や姿、適応する環境など7つにわけられたゾーンでは、生きものの魅力をたっぷりと感じることができます。お子さんはもちろん、大人も生きものにふれたときの純粋な驚きや感動を再び体験できるような仕掛けがなされています。

このたび、みんなぱくとニフレル（株式会社海遊館）は、連携協力協定を締結しました。年末年始展示イベント「さる」に関連して、1月11日（月・祝）におこなわれたトークイベント「みんなぱく×ニフレル——人と生き物をつなぐ」は、その締結とニフレルの開館を記念したものであります。

みんなぱくには生きものそのものはいませんが、毛皮や羽根などを素材としたものや狩猟・牧畜の道具、そして生きものから相を得て作り出した仮面や像など、人と生きものとのかかわりを示す資料が多数展示されています。

「みんなぱく×ニフレル」の模様。まずニフレルの小畑洋館長（中央）とみんなぱくの池谷和信教授（左）による、人と生きものとの関係についての講演があり、その後みんなぱくの上羽陽子准教授（右）の司会により、小畑館長と池谷教授の対談がおこなわれました



みんなぱくの展示には、生きものをかたどったものや、生きものを素材にしたものがいっぱいあります。それぞれの展示場で視線を上にとさがしてみてください



ニフレルの「うごきにふれる」ゾーン。ワオキツネザルやカピバラが気ままに通路を横切り、鳥たちが飛び回ります。ここでは来館者よりも生きものが主役のようです

人が生きものとかかわりながら生みだした造形物を展示するみんなぱくと、生き物の特性に焦点をあてた展示をするニフレル、一見手法も視点も異なるようですが、このふたつのミュージアムが連携協力することで、あらたな知的創造がおこなわれることが期待されます。また、万博記念公園は、1970年の万博開催後に「緑に包まれた文化公園」として整備されました。植栽から40年以上たち、大きな森ができあがったこの公園は、みんなぱくに加えてニフレルがオープンしたことで、わたしたちと生きものとの関係を今一度見直し、理解を深めるためのよりよい場所となったのではないのでしょうか。「生きものさがし」は万博記念公園にぜひお越しく下さい。

みんなぱくをもっと楽しみたい人のために————— 会員制度のご案内

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。電話06-6877-8893（平日9:00～17:00）

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます（特別展示は観覧料割引）。他にも、みんなぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館 キャンパスメンバーズ

みんなぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。